

第1回塩竈市総合教育会議 概要報告

1. 日 時 令和2年7月31日
開会 14時00分 閉会 15時30分
2. 会 場 塩竈市民交流センター 第二・第三会議室
3. 出席者 塩竈市長 佐藤 光樹
塩竈市教育委員会
教育長 吉木 修
教育長職務代理者 柴田 仁市郎
委員 池野 暢子
委員 佐浦 弘一
委員 松田 攝子

(事務局)
市民総務部長 小山 浩幸
市民総務部理事兼政策調整監 荒井 敏明
市民総務部政策課長 末永 量太
市民総務部政策課企画係長 菊池 亮
教育部長 阿部 光浩
教育部次長 本田 幹枝
教育部参事兼学校教育課長 白鳥 武
教育部教育総務課長 佐藤 聡志
教育部生涯学習課長 布施 由貴子
教育部市民交流センター館長 井上 靖浩
教育部教育総務課総務係長 中村 顕介
教育部教育総務課総務係主査 星井 絵名
4. 協議事項 議題1 塩竈市教育大綱、塩竈市教育振興基本計画について
議題2 塩竈市生涯学習プランの策定について
議題3 豊かな心を培うまちづくり に関する主要な取組みについて
(1) 本市の学力向上・学習支援の取組について
(2) ダンスクラブ応援事業について

5. 概要

- 開会
- 佐藤市長あいさつ
- 出席者紹介
- 協議事項

議題1 塩竈市教育大綱、塩竈市教育振興基本計画について

(説明者：教育部教育総務課長 佐藤 聡志)

資料に基づき提案した後、意見交換をおこなった。

【主な意見】

〈柴田委員〉 目玉となるような事業はあるのか。

〈佐藤教育総務課長〉 これからの検討にはなるが、国の教育振興基本計画にもある、人生 100 年社会、超スマート化社会、個別最適化された教育などを反映していきたい。地域の実情に応じた内容としては、小中一貫教育、学校・家庭・地域の連携などをポイントとしていきたい。

〈柴田委員〉 塩竈市独自の小中一貫教育は成果が出つつあるので、ここに力を入れていただきたい。

〈池野委員〉 点検評価の達成状況は平成 30 年度の状況が示されているが、実施計画の目標値はこれから定めていくのか。

〈佐藤教育総務課長〉 これからの国の政策、長期総合計画の内容なども踏まえてこれから検討になる。教育委員会などで提案させていただく。

〈松田委員〉 今年はコロナの影響で、全国学力・学習状況調査は行われなかったが、目標値をどう定めるのか。また、特別支援教育の充実について達成度が唯一◎になっている。特別支援教育は、様々な特性を伸ばしていけるように充実しなければならない。達成したあとどのように目標を掲げていくのか。

〈白鳥学校教育課長〉 全国学力・学習状況調査は実施していないが、評価として標準学力調査を行っている。さらに、8月21日に市内一斉に全国学力・学習状況調査の問題を解く日を定めるので、全国比は出せないが、一定の状況を見るためのデータは取れると思っている。特別支援教育の目標達成の先としては、目標値の見直しを検討するように進めていきたい。

〈松田委員〉 特別支援教育の支援員さん達に対して、質を高めるような研修などが行えると良いと思う。

議題2 塩竈市生涯学習プランの策定について

(説明者：生涯学習課長 布施 由貴子)

資料に基づき提案した後、意見交換をおこなった。

【主な意見】

〈柴田委員〉 第6次長期総合計画の策定はどのように進んでいるのか。

〈小山市民総務部長〉 本来は令和3年度から計画期間を始めたかったが、昨年9月以降審議会を立ち上げていたものの、コロナの影響で市民と直接お話しを聴く機会を持つことができなかった。令和3年度中に計画づくりをし、令和4年度から実施することにし、ワークショップなどを通じて計画を作り上げていきたいと考えている。

〈佐浦委員〉 進め方を見ると、前回の計画について市民の皆さんの考えが反映される流れではあると思う。生涯学習は、市民の満足度を上げていくポイントになると思うが、市長の考えを生かす仕組みはどのようになるのか。

〈佐藤市長〉 まずは独りよがりにならないことが前提で、幅広い市民の声を聴くことが大事だと思っている。その一方で、専門分野に対するご意見の聴取は難しいと思っているので、たたき台を作る中で、専門家や我々の考えを入れていきたい。計画ありきではなく、計画の進捗状況を見ていかないといけない。時代の変化に応じた考え方の変化を柔軟に入れていきたい。長期総合計画は、10年の計画ではあるが、5年を一つの節目として見直しを含めて考えていきたい。時代の変化は大変早いので、柔軟に対応できるあり方を常に模索し続けていきたい。教育のあり方にゴールはないので、“塩竈の教育はこうあるべきだ”という前に、今の子どもたちに何が必要で何を教えていくかを考え臨機応変に対応できるあり方を考えていきたい。教育委員の皆さんのご意見を踏まえたたたき台を作り、市民にお示しし、柔軟な変化ができる計画になることを望んでいる。

〈佐浦委員〉 議題1の時にいうべきだったが、考えがまとまらなかったもので、ここで発言をさせていただきたい。本来の教育大綱や、教育振興基本計画の性格にもあるが、長い期間の間にいろんなことが起きる。例えば今回のコロナのように、思わぬことが発生する。今後も思わぬことが発生し、従来のような通学をして教育を受ける機会が失われるような事態に対し、コロナの経験からどのように教育の手法を取っていくのか、コロナの経験を生かすような仕組みづくりが必要になると思った。GIGAスクール構想などがその一端を担うことにはなると思うが、学びの共同体などの進め方もあるので、どう環境の変化に対応していくのか、基本的な大綱や計画に盛り込んでいくのかは検討した方がいい。

〈佐藤市長〉 経験したことの無いことを今まさに経験している。生涯学習の施策の中には、防災学習の推進もある。コロナを踏まえた避難所のあり方も劇的に対応の変化が求められている。こういうことがあったからこそ全国的に5Gの推進、タブレット端末の導入、リモートワークなどが進んだ。家庭の所得格差に依らず教育が受けられる

ように考えて、計画に盛り込んでいきたい。方向性を間違えないように定めていきたい。財政は大変厳しいが、大人が我慢しても子どもに教育をとという思いがある。

〈吉木教育長〉 人生100年時代の中で文化、芸術、スポーツを進めていかなければならない。学習と学校とのつなげ方を考えなければならない。塩竈は市域がコンパクトなので、学区というより一つの市としてどのようにつながっていくかを考えたい。“子どもたちのため”だけではなく“お互いのために”学習があるという環境にしていきたい。美術館、わくわく遊び隊などを発展的にプランに組み込み、社会教育と学校教育のWin-Winの関係を作っていくことが、小中学生が10年後社会人になったときに、地域や学校に返していけるようになることを盛り込んでいきたい。

〈柴田委員〉 部活動外部指導者に講習会を行っていた。スポーツ障害やケガの防止などを学んでいただいた。コロナ禍が明けて急に体を動かしたとき、急激な負荷でのケガの心配がある。部活動の外部指導者へ講習会を定期的にした方がよい。

〈吉木教育長〉 柴田委員の発言はその通りで、子どもの数は減っている。今現在も部活動の数が多くて大変な学校もある。部活についても市全体であり方を考えることが大事。中学校の教員でも競技に専門的な教員もいて、実力をその学校だけで発揮するのではなく市全体で発揮してもらうなど考え方としてある。教員の働き方改革や地域スポーツの振興につながることになるので、10年のスパンで考えていく本計画にて考えていきたい。

議題3 令和2年度における教育分野の主な取組について

(1) 本市の学力向上・学習支援の取組について

(説明者：学校教育課長 白鳥 武)

(2) ダンスクラブ応援事業について

(説明者：生涯学習課長 伊藤 英史)

資料に基づき説明した後、意見交換をおこなった。

【主な意見】—学力向上・学習支援—

〈柴田委員〉 学びの共同体でのグループの取組の中で、利点は伺ったが、弊害は何か出ているのか。

〈白鳥学校教育課長〉 学びの共同体で理想としているのは、「わからないから教えて」と言える、または“教えてほしい”気配のある子に声をかけるられるようなペアやグループ組みを考えているが、「自分で頑張りたい」と思っている子に対して教えてしまう子が出ることもある。「求められたら教えるのが思いやりだ」と指導している。

〈松田委員〉 マネジメント支援事業の成果を教えてください。終了時までの目標や課題なども。

〈白鳥学校教育課長〉 資料 P8 に記載の内容が成果であると考えている。標準学力調査が年2回なのは大きい。年1回の自治体も多いが、1回で測れることには限りがある。2回行うことで、教員の指導がどうであったかを測ることができる。Q-U調査の大きさも大きい。状況をこまやかに見ることができ、実態に対してすぐに手当てをすることができる。PDCAサイクルが早く回ることできめ細かい対応ができていると思う。

〈松田委員〉 標準学力調査とQ-U調査は関連付けたサイクルになっているのか。

〈白鳥学校教育課長〉 はい。これからもそのように関連付けたサイクルで行っていきたいと考えている。

【主な意見】ーダンスクラブ応援事業ー

〈佐藤市長〉 塩釜高校の生徒さんたちと意見交換を行ったことがきっかけ。全国大会に出場しているダンスクラブの練習環境が乏しいとわかり、公共施設の稼働率向上の課題と相まって実現した。タイトルは、“ダンスクラブ”としているが、武道の型のチェックや、社交ダンスなどでも活用してもらえることを見込んでいる。コロナ禍で部活動自体が縮小されていることもあるので大きな宣伝はできないが、今年度の整備に加え、次年度も整備をしていきたいと考えている。

〈松田委員〉 教育フェスティバルなどで見たことがあるが、大変すばらしかった。

〈佐浦委員〉 若干話は逸れるが、公民館利用に係るガイドラインに基づいて開館をしていると思うが、利用者へお願いしていることを教えていただきたい。

〈布施生涯学習課長〉 5月18日から施設を再開している。飛沫感染に一番注意が必要だったため、当初は合唱、合奏の団体には利用を控えていただいた。換気などの環境を整えて7月の下旬から感染対策、検温、手指消毒などをお願いした上で、すべての団体に使用をしてもらっている。団体側からのキャンセルの申し出もあるのが現状である。

○閉会